

高津川試験地淡水魚種苗生産試験

中 村 幹 雄

1. 目 的

前年度に引続いて、コイの種苗と食用魚の生産、配付並びに養殖技術の普及指導を実施した。

2. 生 産

採卵と養成方法は前年度と同じであった。元池の施肥は鶏糞と化学肥料で、5月21日から6月10日に実施した。産卵とふ化の状況は表1に示した。

表1 産 卵 ， ふ 化

月 日	水 温	種 別	親 魚 数		採 卵 数	ふ 化 率	ふ 化 毛 仔	備 考
			♀	♂				
月 日	℃		尾	尾	推定 万粒	推定 %	推定 万尾	
5. 25	22.0	真 鯉	2	5	40	80	32	
5. 28	23.0	真 鯉	1	2	20	80	16	
5. 28	23.0	色 鯉	2	3	20	70	14	♀大正三色 ♂昭和三色
6. 12	23.0	真 鯉	1	2	20	80	16	

養成期間中、当才魚の元池ではアミミドロが繁茂したので、5月27日から約1ヶ月間にわたり、除去作業を反復して実施した。また、6月中旬から8月中旬にかけて、背仔がエラ病のために大量に斃死したので、硫酸銅0.15 ppmの永久薬浴、抗生物質製剤「ケミセチン」、サルファ剤「イスタンソーダ」の経口投与など実施し、治ゆせしめた。二才魚と食用魚でもえら病と穴あき病がみられたが、大量斃死にはいたらなかった。

養成期間中の旬別平均水温を図1に示した。

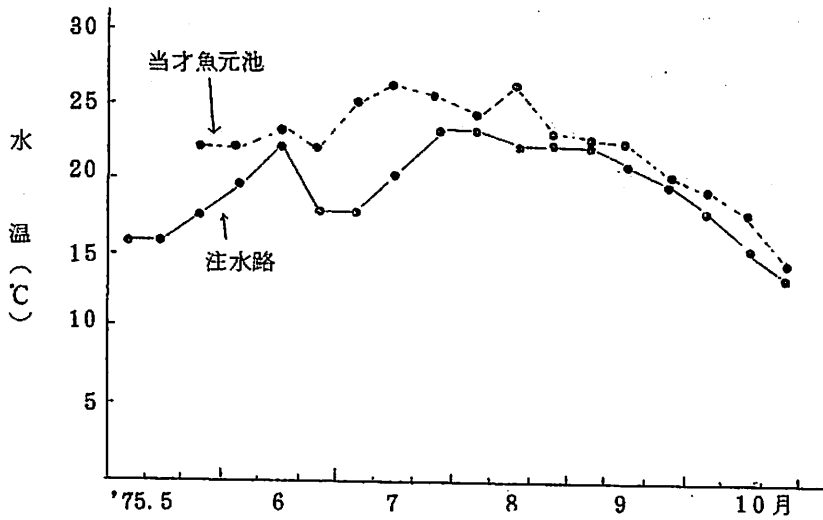


図1 旬別平均水温

3. 配付

生産品は市町村，農協，漁協を通じるなどして，主に石見部へ配付した。配付結果は表2に示した。

表2 種苗，食用魚の配付

稲田用		溜池用		養殖用		放流用	食用魚
真鯉	色鯉	真鯉	色鯉	真鯉	色鯉		
尾	尾	尾	尾	kg	尾	尾	kg
18,750	6,750	1,407	4,858	3,713	1,988尾 16.12kg	23,000	2,028

但し，養殖用種苗は目方物（150～250gもの）で，養殖用色鯉は雑物を含む。

4. 指導普及

主にコイの養魚技術の普及指導に務めたが，益田市近郊のスッポン養殖についても技術指導を併せて実施した。

5. そ の 他

当才魚生産の元池で、ミジンコにツリガネムシが多数着生したので、ツリガネムシの駆除を目的として、ミジンコ、ツリガネムシ、コイ毛仔の各種薬浴に対する抵抗性の実験を昭和50年6月7日から実施したが、別に報告の予定である。